

国際天然ガス情勢の展望

<報告要旨>

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
化石エネルギー・国際協力ユニット ガスグループ
研究主幹 橋本 裕

LNG・天然ガスの需給・価格動向

1. 世界の LNG 需要は、2019 年 3.4 億トン、2020 年 3.6 億トン（天然ガス需要の 12%）、供給能力は 2019 年末 3.5 億トン、2020 年末時点で 3.9 億トンと見込まれる。主力 LNG 市場である北東アジアでは、中国を除き需要の勢いが鈍っている。2020 年までは、供給能力が需要を上回る傾向が続く。
2. 日本の LNG 平均輸入価格は、2018 年（暦年）の 100 万 Btu 当たり 9.97 ドル、2019 年上半期平均 10.35 ドルから、2019 年後半は 9.9 ドル、2020 年 9.6 - 9.1 ドルと、微減傾向を予測する。寒波等、気候要因にもよるが、北東アジア向けスポット LNG 価格は、引き続き供給能力の増加が続くことから、2019 - 2020 年平均で 5.5 - 6 ドルと予測する。
3. 日本では、直近データである 6 月の平均 LNG 輸入価格が、9.35 ドルまで下がったが、第 2 四半期平均で主要指標スポット価格の 1.6 - 2 倍と、両者の乖離割合が 2011 年以降で最大となった。豊富な供給力で生じた低価格など、短期 LNG 市場のメリットを十分に取り込むため、LNG 売買契約条件改善（価格決定方式多様化、数量・仕向先柔軟性）がいつそう重要となっている。
4. OECD 諸国 + 中国・インドの天然ガス需要は、2018 年が前年比 110 bcm（6%）増の 2,112 bcm であった。2019 年第 1 四半期は、前年同期比 18 bcm（3%）増の 652 bcm となった。特に OECD 米州及び中国が需要増を牽引している。2019 年通年でも米国・中国を中心に堅調な需要増加が見込まれる。とはいえ、増加ペースは前年を下回ると予測する。

主要国動向

5. 米国の天然ガス生産は、2019 年 4 月、24 ヶ月連続で前年同月比増加となり、1 - 4 月の生産は、前年同期比 13%増加の 304 bcm（2018 年通年は 12%増加）、消費量は前年同期比 3%増加の 323 bcm（2018 年通年は 10%増加）となった。月次ベースで見て米国は 2017 年 9 月以降、天然ガス純輸出国となっている。
6. 米国は 2018 年に前年比 53%増の 2252 万トンの LNG を輸出したが、2019

年1-5月に前年同期比51%増の1315万トンを輸出した。5月末、米本土4件目の輸出プロジェクトとなる Cameron LNG が、初カーゴを出荷した。同国ではさらに2件の LNG 輸出プロジェクトが、稼働開始の過程にある。生産容量は本年末までに年間5600万トン程度に増加する見通しである。

7. 2018年に前年比22%増の7000万トンの LNG を輸出し、世界最大の LNG 輸出国のポジションが目前に迫る豪州は、2019年前半に前年同期比17.5%増の3700万トン強を輸出した。同国では前年末に稼働開始した Ichthys プロジェクトの立ち上がりが続くとともに、6月には同国最初の浮体 LNG 生産設備となる Prelude FLNG が初カーゴを出荷した。
8. 中国の2019年1-5月の天然ガス消費は前年同期比13bcm（12%）増の126bcm、天然ガス生産は前年同期比7bcm（10%）増の73bcm と引き続き堅調に増加している。同国の LNG 輸入は1-5月に前年同期比400万トン（20%）以上増加して2400万トン近くとなった。通年では6400万トンに達すると見込まれる。季節間のガス需要変動対応等により、2018年は日本を抜き世界最大のスポット・短期契約 LNG 輸入国となった。
9. ロシアの2018年のパイプライン天然ガス輸出量は前年比4.4bcm（1.6%）増の281bcm と緩やかな増加であった。2019年には中国向けパイプライン完成が予定されている。一方、2017年末稼働開始した北極圏 Yamal LNG プロジェクトが加わり、LNG 輸出が増加している。
10. OECD 欧州は、2018年通年で前年比22bcm（4%）減の507bcm、2019年第1四半期が前年同期比5bcm（3%）減の175bcm と、天然ガスの需要減少が続いている。他方、域内天然ガス生産量が減少していることから、他地域で引き取られない LNG が最後に振り向けられる傾向が続いており、特に2018年第4四半期以降、LNG 輸入が高水準となっている。

LNG 市場流動性・プロジェクト投資動向

11. スポット LNG 取引量は2018年に7870万トン（全取引量の25%）に達した。中国の季節間需要変動対応、東南・南アジア等新興市場に向けたポートフォリオプレイヤー等の二次販売により、今後もスポット・短期契約販売が増加する。米国産 LNG 輸出増加に伴い、輸送の最適化ニーズも高まってくるため、LNG 売買契約柔軟性が重要となる。
12. 新規 LNG 輸出プロジェクトは、2019年は既に3件、合計容量年間3400万トン分の投資決定が発表された。今後も米国、ロシア等で投資決定をめざす案件が多数存在し、空前の FID 年となる見込みである。世界の LNG 案件において経営・財務・技術面での巨大な体力を有する企業のプレゼンスが高まる中、日本企業もこれら案件での LNG 引き取り、プロジェクト出資、東南アジア・南アジア等の新興市場需要開拓での積極的役割が期待される。

以上